

# 科目 解剖学 (Anatomy)

担当教員 五十嵐 広明

## 【1】 授業の目的と学習成果〔教育目標・具体的な項目〕

この授業から、人体の運動器系（骨格系、筋系）、内臓（消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系）、循環器系、神経系、および感覚器を構成する各器官の構造とこれら器官の発生を理解します。この授業の一般目標(General Instructional Objective:GIO)は、「臨床検査技師として必要な人体の肉眼レベルの正常構造に関する知識を身につける」です。

<教育目標>

(1) 十分な知識・技能と、科学的な探究心・思考力・批判力をもつ

<具体的な項目>

専門分野における十分な基礎知識・基本技能 (1)

## 【2】 授業計画

No.	内 容
1	解剖学総論：解剖学とは、解剖学用語（人体の区分と名称） 骨格系：総論、各論（軸骨格、付属肢骨格、関節） SB0s： （1）骨を形状により分類し、骨の連結の種類について述べ、そして関節について説明することができる。 （2）全身を構成する骨を列挙し、それらを部位別に分類し、さらに個々の骨について述べるができる。
2	筋系：筋の一般構造と分類、頭部・頸部・胸部・腹部・背部の筋、上肢・下肢の筋 SB0s：全身に分布する筋を部位別に分類し、主な筋の作用について述べるができる。
3	消化器系1：器官の基本構造（中空性器官、実質性器官）、消化管 SB0s： （1）器官の基本構造について説明することができる。 （2）消化管を構成する器官を列挙し、それらの器官の構造を説明することができる。 （3）口腔・咽頭・下部消化管および肛門とその周囲の構造について説明することができる。
4	消化器系2：消化管、消化腺、消化管と消化腺の発生、腹膜 SB0s： （1）消化腺である器官を列挙し、それらの器官の構造を説明することができる。 （2）消化管と消化腺の発生について説明することができる。 （3）腹膜について説明することができる。
5	呼吸器系（縦隔を含む）：鼻腔、咽頭、喉頭、気管、気管支、肺、縦隔 SB0s： （1）鼻腔、咽頭、喉頭、気管、気道および肺の構造について説明することができる。 （2）縦隔について述べ、そこに存在する器官について説明することができる。
6	泌尿器系：腎臓、尿管、膀胱、尿道 SB0s：泌尿器系を構成する器官を列挙し、それらの構造を説明することができる。
7	生殖器系1：泌尿生殖器系の発生、男性生殖器 SB0s： （1）泌尿生殖器系の発生について説明することができる。 （2）男性生殖器に所属する器官を列挙し、それらの構造を説明することができる。
8	生殖器系2：女性生殖器 SB0s：女性生殖器に所属する器官を列挙し、それらの構造を説明することができる。
9	内分泌系：内分泌器の発生、甲状腺、上皮小体、下垂体、副腎、膵島（ランゲルハンス島） SB0s： （1）内分泌器の発生について説明することができる。 （2）内分泌系に所属する器官を列挙し、それらの器官の構造を説明することができる。
10	循環器系1：血管系（心臓・動脈・毛細血管・静脈） SB0s：心臓と動脈・毛細血管・静脈の構造を説明することができる。
11	循環器系2：リンパ管系、リンパ様器官（リンパ節、脾臓、胸腺） SB0s： （1）リンパ管系について説明することができる。 （2）リンパ節、脾臓および胸腺の構造を説明することができる。
12	神経系1：中枢神経系 SB0s：中枢神経系（脳、脊髄）を構成する部位を列挙し、それらの構造を説明することができる。
13	神経系2：末梢神経系 SB0s：末梢神経系（脳脊髄神経系、自律神経系）の構造を説明することができる。
14	感覚器 SB0s： （1）視覚器である眼球とその付属器〔眼瞼（がんけん）など〕の構造を説明することができる。 （2）平衡聴覚器（外耳・中耳・内耳）の構造を説明することができる。 （3）皮膚とその付属器〔角質器（毛）、付属腺（脂腺、汗腺）、知覚神経終末〕の微細構造を説明することができる。
15	学習到達度の確認：全範囲の多肢選択問題 MCQ (A-type, X2-type)

### 【3】 到達目標

各回の授業には、1～3つの行動目標（Specific Behavioral Objectives: SBOs）を設定しています。SBOsは授業計画内の各回に提示します。

### 【4】 授業概要

解剖学総論の講義の後、1. 骨格系、2. 筋系、3. 消化器系、4. 呼吸器系（縦隔を含む）5. 泌尿器系、6. 生殖器系（男性生殖器、女性生殖器）7. 内分泌系 8. 循環器系〔リンパ様器官（リンパ節、脾臓等）を含む〕、9. 神経系、10. 感覚器の順に10系統の講義を行います。

単に器官の形態と名称を覚えるだけの解剖学に止まらないように、なぜ総胆管が膵管と合流して大十二指腸乳頭に開口するのか、またなぜ肝臓の右葉が左葉に比べて大きいのか、そしてなぜ脾臓が左側に位置するのか等、器官発生学の内容にも触れ、人体の構造に関する少しレベルの高い知識を講義を通じて修得します。

### 【5】 準備学習（予習・復習）および必要時間

先入観の無い状態で講義をしっかりと聴き、講義プリントをもとに必ず復習（1時間）をして下さい。

### 【6】 教科書・参考書・参考資料

〔教科書〕講義プリントを毎回の講義時に配付するので教科書は指定しない。

〔参考書〕「人体解剖学 改訂第41版」藤田恒太郎 著、南江堂

「日本人体解剖学 上巻・下巻 改訂第19版」金子丑之助 原著、南山堂

「ラングマン 人体発生学 第11版」T. W. Sadler 著 安田峯生 訳、メディカル・サイエンス・インターナショナル

### 【7】 評価方法およびフィードバック

全講義終了後に筆記試験を実施し評価する。試験の問題形式は臨床検査技師国家試験に準拠した多肢選択問題MCQ（A-type、X2-type）とする。試験後、模範解答を配付するので復習のこと。

### 【8】 オフィスアワー

開講日の水曜日12:10～12:45および解剖学実習終了後の1時間

### 【9】 関連科目

〔予め学んでおくとよい科目〕

組織学 細胞組織学

〔この科目に続く内容の科目〕

解剖学実習 病理学 病理学実習

### 【10】 その他

化学科、生物分子科学科、生物学科の臨床検査技師課程の学生および生物科の臨床検査技師課程を履修していない学生を対象とします。臨床検査技師課程の学生は必ず解剖学実習と同時履修すること。